事例No.	2418
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	海士町複業協同組合

事例区分	地域活性化

タグ	・人材確保・育成 ・移住定住 ・地域運営組織

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

海士町複業協同組合
「働き方をデザインする」ことで新たなしごと創出へ

出典

特定地域づくり事業協同組合事例集

事　例　**海士町複業協同組合**

「働き方をデザインする」ことで新たなしごと創出へ

島根県 海士町

活用のきっかけ・期待すること

▶海士町内（一般社団法人 海士町観光協会）で行っていた、マルチワーカーが正式に法制度化されたため、組合を設立。

▶様々な事業所で働き、企業間どうしの共通課題や企業の強みを見つけ、それをマルチワークという手法を用いながら解決、伸ばしていくことで、地域内に新たな仕事が生まれることを期待。

取組内容

▶やりたい暮らし、仕事に寄り添い働き方をデザイン

地域の1～3次産業を網羅的に35事業者が組合員として出資（うち26事業所へ派遣済）。常勤の事務局員と非常勤の事務局員（合計4名）で職員をサポートしながら通年の仕事をコーディネート。

これまでに組合で雇用した24名（すべてが移住者）の職員を各事業者に派遣することで、様々なつながり、発見から新たな仕事を創出し、その仕事がまた新たな働き方に組み込まれてゆく循環をつくることを目指す。

組合の特色

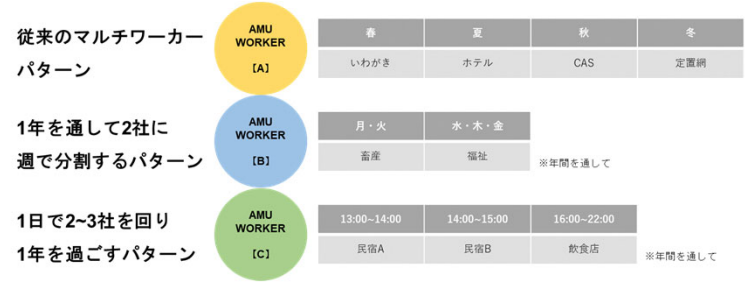
▶私らしく、しごとを編んでいく「AMUWORK」

人材が不足している事業者のニーズや要望を最優先に置かず、派遣職員のニーズを優先し、派遣先を調整。

結果として組合員の大幅な増加に繋がるとともに、十人十色な働き方が誕生しており、多様な働き方ができる地域としての価値も向上している。

また、この取り組みが複業を通じた過疎地域の活性化事例として、特定地域づくり事業協同組合としては初めての2023グッドデザイン賞を受賞している。

マルチワークのイメージ



組合に関わる皆さんの声

▶組合員(水産加工業)

自分がやりたい仕事と地域のためになる仕事が最初からマッチすることは難しい。だから、多様な仕事に関わることで選択肢を増やせるのは派遣職員にとっても、事業所にとってもよいことだと思う。

▶派遣職員（20代埼玉県から移住）

漁師をやってみたかったが、やり続けなくてもいい選択肢がある海士町複業協同組合へ就職した。働き先として定置網漁→漁協→森林組合→介護施設とその時々に生まれる興味や関心に沿って職場を選択している。





